

## 第5学年 図画工作科学学習指導案

題材 大事に育てたわたしのお米

指導観

- 本題材は、稲を育てた経験から心が揺り動かされた瞬間や驚き、喜び、苦労の中から絵に表したい思いを互いに深め合い、どのように表現したら思いが表れるか工夫して思いの実現に向けて努力を重ねて満足感を味わわせることがねらいである。

本題材を子どもたちが取り組む中で、次のような価値があると考えられる。

- ① 児童の米作りの体験から題材を設定することで、自ら感動を振り返ることができる。それは、児童一人一人が一学期から自分の稲を大事に育て、その時々喜びや苦労を共に味わってきているからである。自分でしっかり世話をしてこそ味わえる驚きや感動や喜びを味わったからこそ、その途中での思いも含めて今の思いを表現しようと活動意欲を高められる。
- ② 自分の表したい場面・思いを稲と自分の配置、人物の大きさ、周りの様子など画面構成を工夫して表すことができる。
- ③ 自分の表したい場面・思いをはっきり表すために線描材や画用紙の選定をし、水彩絵の具による彩色のよさや効果を考えるようにする。
- ④ 制作途中や終末段階で作品の交流をすることで自分の努力の過程を振り返り、自らの思いの実現に向けて活動をしてきて得た満足感を味わい、自らに対する誇りにつながることができる。
- 本学級の子どもたちは、1学期に「運動会の絵」で水彩絵の具による絵画表現の学習をしている。運動会では、きつい練習も共に励まし合いながら乗り越えた達成感を多くの児童が味わっていたが、直前に「絵に表したいですか」とアンケートをとったところ、描きたいと答えた児童は15人にとどまり、さらに

描いた絵に対する満足度も低かった。運動会での自分には満足していたのに、その思いを感動として絵に表すことでさらに喜びを味わい、自分の絵に誇りをもつための成長へと結びつけることの難しさを感じた。まず、何を表したいのかはっきりと思いをもたせて、その思いを教師が共感的に受け止め深めて、活動への意欲を持たせることが自分の絵に誇りがもてる絵につながるのだと考える。

- 本題材の指導と評価にあたっては、まず、主題を明確にする活動では、自分たちの作文や写真などから、自分が表したい場面や気持ちを交流させ、自分の絵に表したい思いを明確にもてるようにする。

次に、それぞれの主題がよく表れるために、材料の選定、画面構成のための資料、彩色表現による効果について、児童一人一人と対話しながらその思いを理解し、個に応じた活動の演示や指導を行っていく。

最後に、作品を鑑賞する活動では、自分の絵を手にとりどのように自分の思いを表現したのかを自信をもって語り合いながら互いのよさを味わうことができるようにする。

評価については、一人一人の思いの実現に向けて、対話をしながら思いの実現に向けての挑戦を促し、次の活動へとつなげていく。

目標

- 米を育てた経験の中で、感動したことを思い浮かべ、思いを確かめながら絵に表す活動を楽しむことができる。

(造形への関心・意欲・態度)

- 思いがよく伝わるように、大きさや配置等の画面構成を工夫することができる。

(発想や構想の能力)

- 自分の表したいことがより明確になるように、線描材や彩色表現の効果を確かめながら、工夫して表すことができる(創造的な技能)

- 絵で表したい思いを読み取りながら作品のよさを感じとることができる。

(鑑賞の能力)

題材における指導事項・評価規準・指導方法（全8時間）

	学習活動	関 意	発 構	技 能	鑑 賞	具体的評価規準	指導事項	指導方法
朝 活 動	1. 参考作品や教科書の作品をみて、作品のよさを探す。	○				・提示された作品のよさを見つけようとしている。 (関)	○ 作品から作者の伝えたい感動や水彩画のよさ、美しさに気付くようにする。	・様々な工夫や感動が伝わる、思いを共感できる作品を提示する。
思 い を 明 確 に す る	2. 田んぼ見学の時のビデオや稲の観察ノートを見て、驚き、喜びや感動を話し合う。 3. 観察ノートや掲示資料を参考にしながら米作りの体験の中でどんな場面や気持ちを絵に表したいか決める。 4. 米作りの中で味わった感動をしっかりと表すために、アイデアスケッチをする。 (1時間+課外) (本時)		○			・観察ノートや米作りを振り返っての気持ちを書いた作文を読み返してその時の気持ちを思い出している。 (関) ・今までの活動で味わった感動を思い出しながら絵に表したい思い、場面を選ぼうとしている。 (関) ・提示資料などをもとにアイデアスケッチを描きためて、その中から自分の思いがよく表れるためには何を描いたらいいか、考えようとしている。 (関) ・どのような思いを表そうとしているか明確になるようなアイデアスケッチをしている。 (発)	○ 自分で味わった感動の中から絵に表したい場面を考えること。 ○ 自分が今までに味わった感動の中から絵に表したい場面や気持ちをよく思い出して考えること。 ○ 自分が表したい思いが表れる工夫をヒント資料などから考えてより思いを深めようとしていること。 ○ アイデアスケッチを描く時は表したい自分の思いを言葉ではっきりと表記しておくこと。	・ビデオや写真等を含めた活動を振り返る資料を用意する。 ・今までの米作りの活動の中で自分が味わった感動の中から絵に表したい場面对話しながら選ばせる。 ・その時の思いを再確認しやすいように稲の模型や写真などを用意する。 ・自分の伝えたい思い、周りの様子も考えながらアイデアスケッチをいくつも描き試しているようにする。
画 面 を 構	5. アイデアスケッチをもとに画面構成をして、自分の思いにあ		○			・思いがわかるような画面構成を考えている。(発) ・ヒント資料などを	○ 思いが明確に表れるように配置、大きさの変化を考え自分や表したい	・線描材や画用紙を試しながら選択できるような試しの場を設定する。

成 し 下 絵 を 線 描 き す る	った線描材を選 び、線描きをす る。  (2時間)				参考に自分の表し たい思いがはつき り表れるように描 いている。(発) ・自分の思いに合わ せて線描材や画用 紙を選択し線描き している。(技) ・中心となるものと 周りの様子を強調 したり、省略した りして表してい る。(技)	中心となるものを 画面のどの位置に 置くとはっきりす るか工夫して表し たい場面を構成す ること。	・互いに交流しやす いようにグルーピ ングして、机の配 置、ヒント資料の 提示方法などを考 え、活動しやすい 場作りをする。 ・思いと周りの描き 方について資料を 提示して、大きさ や重なりなどを工 夫できるようにす る。 ・写真資料や画面構 成資料を提示して 自由に確かめの活 動ができるように しておく。
彩 色 す る 活 動	6. 稲の様子や自 分の思いがよく 表れるように色 作りや筆の使い 方を試しながら 彩色する。  (4時間)		○		・自分の伝えたい思 いが表れるように 表現方法を考 えて意欲的に取り組 んでいる。(関) ・表現の意図や思い に合わせて、彩色 の仕方を工夫して いる。(技)	○ 混色や重色の工 夫や筆づかひの違 いによって与える 効果の違いを学び 工夫して表現する こと。	・水彩絵の具の用具 の使い方や彩色、 混色や重色の工 夫、筆づかひによ る表現のちがひ等 の資料を提示す る。
	7. 作品を交流し お互いの伝えたい 思いを共感し ながらよさを見 付け、自分の表 現に生かす。		○		・自分の作品の工夫 しようとしている ことを話したり、 友達の作品の工夫 を聞いたりして自 分の作品をよりよ くしようとしてい る。(鑑)	○ 互いのよさを取 り入れながら彩色 を進めていくこ と。	・様々な彩色の表現 方法の効果を試す ための小さな紙を 用意しておく。 ・交流しやすい場づ くり、グルーピ ングをする。
鑑 賞 す	8. 自分の表した かった思いが伝 えられたか、自		○		・なぜその場面を選 んだのか、自分の 表したかった思い	・自分の表したかつ た思いが画面構成 や色の工夫・水彩	・自分の思いの実現 のためにどのよう に工夫して活動し

る	<p>分の満足のいく作品づくりができたか自己評価する。</p> <p>9. 互いの作品を鑑賞し合い、よさを認め合う。 (1時間)</p>				<p>が伝わるようにどのように工夫したのかを自分の活動を振り返りながら自分の作品を紹介することができる。(関)</p> <p>・友達の作品に込められた思いを感じそのよさを見付けることができる。(鑑)</p>	<p>画による表現の工夫を関連させた自己評価をすること。</p> <p>○ 自己評価をし、またお互いの表したかった思いを聞き表現のよさを考えること。</p>	<p>てきたか自分の活動を振り返り満足度をはかる自己評価カードを用意する。</p> <p>・互いの思いを伝え合いながらよさを認め合える鑑賞カードを用意する。</p>
---	--	--	--	--	---	--	--

## 本時目標

- 米作りで味わった感動や様々な場面を振り返り、自分が絵に表す思いを意欲的に考えようとしている。（造形への関心・意欲・態度 発想や構想の能力）
- 自分の表したい思いが表れるように人物の大きさや稲との配置、強調するものなどを考えるためのアイデアスケッチを描くことができる。（発想や構想の能力）

## 授業仮説

自分の米作りの活動を観察ノートや掲示資料やビデオ等で振り返り、友達と感動を共感し、アイデアスケッチを描き進めながら交流していけば、自ら絵に表したい場面を進んで考えることができ、それぞれの絵に表したい思いを明確にもち、意欲的に活動ができるだろう。

- 自分の絵に表したい思いをもって意欲的に活動に入るために、稲の観察ノートや掲示資料、感動を綴った作文などで自分の感動を振り返り、教師はその思いを共感し受容的態度で支援していく。
- 児童が絵に表したい思いを意識し、深めていくために、図工ノートに言葉による表記をして友達と交流して深めていけるようにする。

## 準備

- 2 B, 4 B 鉛筆      ○ 図工ノート
- 活動を振り返るためのビデオ
- 写真等の掲示資料   ○ 稲ノート・作文
- 評価補助簿

## 本時の指導と評価の考え方

本時は、これまで関わった米作りの活動の中で絵に表したい感動を絵に表すために、児童の思いを友達や教師と共感し、互いに交流する中でさらに深め、絵に表したい思いを選んでアイデアスケッチを意欲的に描いていくことが主なねらいである。

まず、手立ての一つとして、今までの稲を育

てる活動を振り返り、米作りで得られた学び、感動を再現するようなビデオ、写真などの掲示資料を工夫しておく。前時までに子どもたちが書いてきた作文やメモに書かれた表したい思いには、教師が共感する思いを書き示し、活動を意欲づけるようにする。そして、自分で決定した絵に表す思いについて思いを交流する。作文等の文章で書かれた児童の思いを教師も事前に把握し、共感的な言葉かけをしながら進められるようにする。自分の思いを言葉によってより確かなものとして、友達と交流することで互いによきも取り入れられるように、工夫して活動に入る。

そして絵に表したい思いを決定した後、アイデアスケッチを描き始めるようにする。思いの実現のためには何を描いたらいいか考え、部分スケッチをしたり、どこにどんな大きさで何を描けばいいか考えるための活動である。中心となる苗や稲などの模型等を用意することで、画面の中でどの位置に主となるものを配置するか考えられるようにする。

さらに、机間巡視をする中で、活動が停滞している児童には、教師が寄り添って話を聞きながら具体的な助言をしていく。自分が表したい思いについて対話し、共感的な態度を示していくことで、児童の活動を促す。

最後に、本時の活動や交流を通じた自分のアイデアスケッチをふり返る。さらに、より思いが明確に伝わるように工夫しながら下絵を描き進めていくために線書きの材料等も工夫できることを伝え、次時の活動への意欲につなげることができるようにする。

本時の評価にあっては、子どもたちが描いたアイデアスケッチや図工ノートから絵に表したい思いの実現のために意欲がもっているか、活動が停滞している児童には何が必要か、評価を行っていく。さらに、児童の求めている支援を読み取り、次時の指導へとつなげていきたい。

本時学習における指導事項・評価規準・指導方法

	学習活動	具体的評価規準	指導事項	指導方法
導 入	<p>1. 前時までの学習を想起し、本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて</p> <p>自分が米作りで味わった感動の中でどの場面・気持ちを絵に表すか決めよう。</p> </div>			
展 開	<p>2. 米作りのビデオや写真を見て、今までの稲との関わりで感じた喜び、苦労、心配、驚きを交流し合う。</p> <p>3. 観察ノートや掲示資料を見ながら、今までの体験の中でどの場面を絵に表したか決める。</p> <p>4. 表したい思いを絵に描くためには何を描いたらいいか考えアイデアスケッチを描く。</p> <p>(1) 観察ノートや掲示資料を参考に、中心となるものの</p>	<p>・友達の絵に表したい思いを聞き、思いを共有し互いに意欲を高め合っている。 (関)</p> <p>・どのような場面・気持ちを表そうとしているか明確にもっている。 (関 発・構)</p> <p>・思いが明確になるように中心となるものの大きさを考え、どの位置に描くといいか考えている。 (発・構)</p> <p>・中心となる苗や人物などを観察しながらスケッチしている。 (創)</p>	<p>○ ビデオや作文・掲示資料等から自分の絵に表したい思いを明確にもとんとすること。</p> <p>○ 描きたいいくつかの場面の中から色や形を考えて、絵になる場面を選ぶようにすること</p> <p>○ 絵に表したい思いを言葉で表記すること。</p> <p>○ 具体的に場面や思いがわかる簡単な言葉で表記すること。</p> <p>○ 明確に描きたいものを手元に用意するなどしてスケッチしていくこと。</p> <p>○ 人物や中心となる苗や稲等物の大きさや位置を考え、試しながら</p>	<p>・今までの稲との関わりを想起させるビデオや思いを綴った作文へのコメントを記入しておくことで思いを共感する姿勢を示す。</p> <p>・思いを共有しながら、交流が進むようなグループピングをしておく。</p> <p>・今までの体験の中での気持ちを振り返る掲示資料を用意するとともに、前時までに書き綴った作文などから児童の表したい思いを把握しておく。</p> <p>※資料が少ない児童には作文などから把握した児童の思いにあった写真などの資料を個別に用意する。</p> <p>・アイデアスケッチは何枚でも試しながら描きためていいことを知らせる。</p> <p>・部分スケッチを取り入れ、中心となるものは大きくはつきり描ける</p>

	<p>スケッチをして、画面のどこに描いたらいいか考えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心となる苗の模型などを手にしながらどこに描くか考えている。 (発・構)</li> </ul>	<p>アイデアスケッチを描くこと。</p>	<p>ように、取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配置を考えさせるための資料、苗や稲などの模型や観察ノート、写真資料などを用意する。</li> </ul> <p>※何を描いていいかわからない児童には、対話により中心となるものを聞き出し、スケッチから始めるように助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きさや位置を変えることで様子が変わること考えさせる資料を用意する。</li> </ul> <p>※画面構成の工夫に悩む児童には、そのままの大きさでなく強調するために大きく描いたり重なりを考えさせるために操作活動が行える画面構成の資料で具体的に個別に指導する。</p>
	<p>(2) 絵に表したい思いを伝えアイデアスケッチを交流しながら、どんなものをどの大きさに描いたらいいか等考え、いろいろと試しのためのアイデアスケッチをかきためている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの思いを交流することによって、よさを取り入れたり、アドバイスをしたりする。 (発・構)</li> <li>・思いを明確にするために、中心となる物の大きさ周りに描くもの等を考えている。 (発・構)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分と友達の思いの表し方の違いやよさに気付くこと。</li> <li>○ 画面構成の工夫とは描く物の大きさ、重なり、位置関係、中心となるものの位置などを考える事であることを知ること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流を促すような言葉かけをしながら机間巡視する。</li> </ul> <p>※うまく交流ができない児童には席に移動してよいことを伝える。</p>
	<p>(3) 友達と交流しながら、お互いのよさを取り入れるなどしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分との違いや友達のよさを見付けている。 (鑑)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の絵に表したい思いを交流により、共有したり深めたりすること。</li> </ul>	
終末	<p>5. 本時学習をふり返り、次時の学習を知る。</p> <p>(1) お互いのよさを交流し、次時の学習への見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が考えた絵に表したい思いと合わせながら本時のアイデアスケッチを見直し、次時のアイデアスケッチの続きと下絵の活動への見通しがもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時に決めた絵に表したい思いを再確認しこれから何を描き進めればよいか見通しがもっていること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動をふり返らせ、自分の思いを伝えるためにどんな工夫をしたらよいか、何を描いていくか次時のアイデアスケッチや下絵に向けて見通しをもたせる。</li> </ul>